



社会福祉法人岐阜アソシア 視覚障害者生活情報センターぎふ 部長 棚橋 公郎

1 背景・経緯

社会福祉法人「岐阜アソシア」は、明治24年の濃尾地震（死者7,273人、建物全壊14万余戸）において被災者支援に立ち上がったキリスト教の一教派“日本聖公会”の宣教師や信徒が、視覚障害者に対する自立支援の場として開設した「岐阜鍼灸練習所」を端に発する団体である。

平成9年に法人名を「岐阜アソシア」に、施設名を「視覚障害者生活情報センターぎふ」に改称し現在に至る。業務として主に文字（墨字）情報を点訳、音声訳、拡大文字等で提供する情報提供部門、歩行や点字、パソコンなどの日常生活指導部門、生活相談や各種イベントの開催、クラブ活動支援などの生活支援部門、移動支援として居宅介護事業所を運営している。

きっかけとして阪神・淡路大震災時に

おける障害者支援活動や、その後の、視覚障害者団体が実施する避難訓練や救急救命講習での視覚障害者支援活動を通して、災害時における障害者向けの情報提供手法や、支援態勢が確立されていないことを痛感したことから、障害者と健常者が共に参加できる防災訓練的な内容の「防災運動会」を平成19年から実施している。

2 活動内容

防災運動会は、「あんしん・安全 搬送リレー（救護者搬送訓練）」、「火事だー大声競争（情報伝達訓練）」、「バケツリレー（消火訓練）」など、障害者と地域住民と一緒に競技に参加して助け合い、共に楽しみながら参加できる競技で構成されている。障害者と地域住民の両者にとって災害時に役立つ知識・技術の習得はもとより、特別支援学校を取り巻く地域住民



物資配給



バケツリレー

の障害者に対する不安を取り除くことや、障害者自身が“できること”を自ら発見するとともに、障害を持っていてもできることがあることを地域住民に啓発することといった効果を期待している。

また、防災運動会と並行して、普通救命講習や防災研修、バザーやもちつき会などを開催し、健常者との相互理解が進み、地域の共生意識の芽生えにつながる様々な取組を継続して行っている。

さらに平成24年から災害時支援システムを自主開発し県内の視覚障害者支援の体制を整え、要支援者や、支援者の登録を開始している。



担架搬送



水害移動

3 活動体制

「岐阜アソシア」は、後援会費や寄付金、国、岐阜県・岐阜市からの受託事業や助成事業で運営されている。また、防災運動会などの事業は、岐阜アソシアのボランティア、県・市、消防署、警察署、自衛隊などの行政、岐阜県視覚障害者福祉協会、岐阜盲ろう者友の会などの障害者団体、盲学校周辺の二つの自治会連合会、水防団などの地元組織や、地元企業、NPO等の協賛や協力を得て実施している。平成21年からは岐阜県事業として開催している。

4 今後の展望

障害者や高齢者などの避難行動要支援者対策をさらに進め、共生社会の実現、ひいては地域防災力の向上に資するため、障害者と地域住民の双方が主体者となって参加できる防災運動会の開催を、岐阜県各所、全国に提起していきたいと考えている。特に特別支援学校を取り巻く周辺自治会、また、障害者個人への防災啓発活動として、障害者団体の研修カリキュラムの中で防災に関する研修を実施していく。

さらに、「岐阜アソシア」の施設が災害時の福祉避難所として活用できるように準備を進めている。

全国の視覚障害者に特化した支援も合わせて構築し素早い対応ができる体制を考えていく。